

特色あるe ラーニング実施事例の紹介

経済学の学士力向上を目指す自学自習型e ラーニング

名古屋学院大学

名古屋学院大学では、経済学部の専門基礎科目の理解度を高めるため、カリキュラムと連動した練習問題（経済学基礎知識 1000 項）を復習教材としてキャンパスコミュニケーションシステム上に掲載し、学習のインセンティブを高める自学自習を実施している。

この e ラーニングの特徴は、携帯電話からもアクセスを可能にしたことで学生の利用を飛躍的に高め、その結果かなりの学習量を学生に与えることで、経済学学士力の基盤を構築するための一つの手段として位置づけている。

1. 実施規模

※経済学部

※科目数：経済学部の専門基礎科目を中心に 30 科目以上

※受講生数：約 2,000 名

2. 授業での活用状況

CCS (Campus Communication System) には、自学自習システムが内包されており、ここに経済学部の全教員が作問した 5 択式の設問を 1000 題以上用意した。学部教育で扱う基本事項を繰り返し学習によって身に付けさせようという組織的取組である。カリキュラムと連動した設問群は、専門基礎科目を中心に活用されている。多くの教員は、自学自習に関連する設問を復習教材にして、学期末試験への出題という学習インセンティブを学生に与えている。

この取組を通じて完全ブレンド型という新たな授業形態が派生した。100 名を超える大人数の講義科目でノートパソコンを利用し、対面講義と e ラーニング双方の利点を取り入れている。『現代経済学』では授業内容に基づいて作成された自学自習を授業前に取り組ませた上で、通常の講義を行う。授業の終わりには、CCS から小テストを実施、学生の授業理解度に関するアンケートや簡単な授業レポート（minutes paper）をネットで提出させる。直ちに得られた集計結果を学生に提示するなどしながら、インタラクティブな授業を展開している。

（詳細は、<http://www.ngugp.jp/feature/03.html> 参照）



ブレンド型授業風景



自学自習への取組風景

3. 大学の支援体制、支援内容

名古屋学院大学は 1997 年より全学生にノートパソコンを配布しており、2001 年度から CCS の導入によって学内のコミュニケーションを一新した。CCS の利用法はじめ情報リテラシーは、ノ

一トパソコンを利用した実習科目でフォローしている。

充実した情報教育環境の下で、「経済学基礎知識 1000 題」プロジェクトは経済学部の将来構想委員会で提案された。実効性のある取組とするために 2006 年度から学部カリキュラムと連動させるとともに、逐次、教授会で報告や協力依頼を行った。また、学生の利用を促進するために携帯電話からのアクセス、学習意欲を促進する「成長するキャラクタ」など CCS の自学自習機能を拡張した。さらに、学術情報センターに院生メンターを配置して、学生の質問に素早く対応できるようにした。

4. e ラーニングの活用効果

自学自習へは携帯電話からでもアクセスできるようにしたところ、利用数は飛躍的に伸びた。学習が進むとキャラクタが卵からヒヨコ→ニワトリ→鳳凰へと成長するという仕掛けを用意し、学習状況に応じたアドバイスができるようになった。学習状況一覧を見ると組織的に取り組んだ成果が表れている。下図は 2009 年 10 月の学習状況を表しており、経済学部生の 450 名（23%）以上が最高ランクまで到達していることが分かる。このような相当の学習量によって、学期末試験に指定した範囲は極めて良くできている事実に教員が気づき、自学自習の活用は着実に増加している。また、完全ブレンド型授業では 100 名以上の受講生がいても、CCS を通して学生の授業参加が可能であり、学習状況が一瞥できる。日頃からの授業への参加態度を成績評価につなげる教育方針は、学生から高い支持を得ている。

The screenshot shows the 'Self-Study Management Page' for faculty members. At the top, there is a navigation bar with links like 'Top', 'Meetings', 'Classroom', 'Job', 'Library', 'Community', 'Shuttle Bus', 'Club', 'Self-Study', 'Attendance/Research', 'Video Distribution', and 'Others'. Below the navigation bar is a search bar labeled 'Student Search' with fields for '学籍番号' (Student ID) and '検索' (Search). A 'Clear' button is also present. The main content area has a blue header '自学自習 管理ページ'. Below it are several tabs: 'トップ' (Top), '科目範囲管理' (Subject Scope Management), 'ブック管理' (Book Management), '検索' (Search), and 'ダウンロード' (Download). A note at the top left says: '※ 学生の学習状況の分布、新着設問、学生に人気の設問、新着ブックが表示されています。※ 科目範囲とブックの表示は、学生側の自学自習のトップページに準拠しています。※ このページでは他教員の科目範囲やブックも表示されます。' On the right, there is a 'コメントを参照する' (View comments) button with a small icon of a person speaking and a note: '※ 最新コメント登録日: 2009/09/13'. The main part of the page is titled '学習状況' (Learning Status) and shows a grid of icons representing different subjects or categories. Below the icons is a table showing student counts across four categories (経営, 商, 外, 人) for each subject. The table includes columns for each subject and rows for each category. The data is as follows:

学部	成績	学部別学習状況				右へ行くほど制覇した科目・範囲数が多くなります。	最新コメント登録日: 2009/09/13
		経営	商	外	人		
経営	38人(2%)	146人(7%)	390人(20%)	340人(17%)	411人(21%)	200人(10%)	453人(23%)
商	138人(10%)	506人(36%)	415人(29%)	237人(17%)	97人(7%)	19人(1%)	8人(1%)
外	68人(7%)	258人(28%)	267人(29%)	208人(22%)	117人(3%)	11人(1%)	8人(1%)
人	22人(3%)	140人(19%)	184人(25%)	157人(21%)	131人(8%)	57人(8%)	40人(5%)

CCS 内の自学自習メニュー：教員トップ画面（管理ページ）

5. 今後の課題

基礎知識の定着をより効果的に実施するため、自学自習システムの出題形式を拡張する必要がある。設問は 5 択式の選択問題だけであったが、キーワードの穴埋めという記述式にも対応させる予定である。また、2008 年度末には自学自習の設問に関する解説を充実するために学部共通テキスト『経済学部生のための基礎知識 300 題』を専任教員で作成した。これを学部生に配布し、ネット環境がなくとも自習できる環境を整備した。今後は、テキストの解説文を短いビデオクリップに収録・編集して、携帯電話へも配信できるような計画を持っている。対面授業を中心として、CCS の自学自習問題集、共通テキスト、解説ビデオクリップという多様な学習教材を準備し、クロスマディアとして組織的活用を目指す。上述の課題は、経済学の学士力基盤を構築するためのひとつの手段として位置づけている。